

論文審査の要旨  
Summary of Dissertation Review

博士の専攻分野の名称 Degree	博 士 ( 学 術 )	氏名 Author	周楊措
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目 Title of Dissertation	中国青海省黄南藏族自治州尖扎県における多民族村の言語使用状況に関する研究		
論文審査担当者 Dissertation Committee Member	主 査 Committee Chair 広島大学大学院国際協力研究科 教授 佐藤 暢治 印 Seal 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 教授 関 恒樹 審査委員 Committee 広島大学大学院国際協力研究科 准教授 深見 兼孝 審査委員 Committee 広島大学大学院文学研究科 教授 根本 裕史 審査委員 Committee 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 教授 星 泉		
〔論文審査の要旨〕 Summary of Dissertation Review	<p>現在中国では漢語の普及により少数民族語は使用場面が限られ、失われつつある。その一方で、複数の言語が日常的に使われている多民族村も存在する。青海省黄南藏族自治州尖扎県のカルタマタン村もその一つであり、そこでは漢族、チベット族、回族等が暮らし、日常的には漢語青海方言とチベット語アムド方言が使用されている。本論文は、このカルタマタン村に暮らす漢族、チベット族、回族それぞれの家庭三世代における言語使用状況について、現地調査を通じて明らかにすることを目的としたものである。学位申請者はこのカルタマタン村出身のチベット族であり、出身者の利点を活かした研究がなされている。</p> <p>本論文は6章からなる。第1章は序論であり、研究の目的、先行研究、意義、方法、論文の構成が述べられている。第2章は青海省、尖扎県、そして調査地カルタマタン村の概要が地理、歴史、宗教、言語等を通じて紹介されている。第3章は漢族家庭の言語使用状況について、王徳有家を例に論じている。家庭内の言語は元々漢語青海方言、チベット語アムド方言の優先順序に従い使われていたが、第二世代が学校教育をチベット語で受けた時期には家庭内の言語もチベット語アムド方言に変わり、その後、漢語青海方言しか話せない嫁が加入すると、家庭内の言語はさらに家族全員が話せる漢語青海方言に変わったという変遷過程を明らかにしている。第4章はチベット族家庭の言語使用状況について、ツイラン家を例に論じている。家庭内の言語はずっとチベット語アムド方言であり、漢語しか話せず出稼ぎで家を空けることが多い婿の加入は家庭内の言語選択に影響を与えていないことを明らかにしている。第5章は回族家庭の言語使用状況について、王敬民家を例に論じている。家庭内の言語は漢語青海方言であり、そこには他民族との交流を避けている歴史的背景と宗教的な原因があることを明らかにしている。第6章は本論文のまとめであり、家庭内の言語を決定する重要な要因が結婚と宗教にあることを論じ、今後の課題として言語選択の一般化のためにも他の条件を持った家庭の調査の必要性が論じられている。</p> <p>本論文は、調査地の出身者ならでの詳細な調査と分析が行われていることが高く評価され、その研究内容は博士の学位取得水準を凌駕していると判断された。本論文の主要な内容は、査読付き学術論文3編として公表済みである。</p>		

以上、審査の結果、審査委員会では、学位請求論文として独創性と確実性を兼ね備えており、博士（学術）の学位を授与するに値する内容の論文として合格と判定した。